プロトコール名　胚細胞腫瘍(精巣腫瘍) BEP療法

適応　胚細胞腫瘍(精巣腫瘍)

投与期間　3週を1コースとして、4コース行う

投与計画

薬剤名	基準量
ブレオ	30 mg/body
ラステット	100 mg/m^2
ランダ	20 mg/m^2

薬剤名	投与量	Day 1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21
ブレオ	30mg/body		↓							↓							↓					
ラステット	100mg/m2	↓	↓	↓	↓	↓																
ランダ	20mg/m2	↓	↓	↓	↓	↓																

(day1、3～5)

①ソルデム3A 500ml　×２(4hr)

②グラニセトロン1B＋オルガドロン4A(30min)

③生食500ml＋ラステット 100mg/m^2 (1hr)

④生食500ml＋ランダ 20mg/m^2 (2hr)

⑤ソルラクト 500ml　×３(6hr)

ソルデム3A　500ml×２	グラニセトロン オルガドロン	ラステット 生食500ml	ランダ 生食500ml	ソルラクト　500ml×３
4時間	30分	1時間	2時間	6時間

(day2)

①ソルデム3A 500ml　×２(4hr)

②グラニセトロン1B＋オルガドロン4A(30min)

③生食100ml＋ブレオ 30mg/body (30min)

④生食500ml＋ラステット 100mg/m^2 (1hr)

⑤生食500ml＋ランダ 20mg/m^2 (2hr)

⑥ソルラクト 500ml　×３(6hr)

ソルデム3A　500ml×２	グラニセトロン オルガドロン	ブレオ 生食100ml	ラステット 生食500ml	ランダ 生食500ml	ソルラクト　500ml×３
4時間	30分	30分	1時間	2時間	6時間

(day9、16)

①生食100ml＋ブレオ 30mg/body (30min)

②生食50ml (5min)

ブレオ 生食100ml	生食50ml
30分	5分

ブレオは胚細胞腫瘍に対して総投与量360mgを超えないこと！
(300mgを超えると肺症状の発現率が高まる可能性があるため注意すること！)

ランダは500mL以上の生食で希釈すること

ラステットは100mgあたり250mL以上の輸液に混和し、30分以上かけて投与すること

ラステットはDEHPフリーの点滴セットを使用して投与すること

投与中及び投与終了後の一定期間（2か月程度）は間質性肺炎や肺線維症等の
肺障害がないことを確認すること

●休薬・減量基準

・腎機能に応じて、ランダの減量をおこなうこと

Ccr（mL/min）	60以上	46～60	31～45	30以下
投与量	減量なし	25%減量	50%減量	投与中止

・腎機能に応じて、ラステットの減量をおこなうこと

Ccr（mL/min）	50以上	15～50	15以下
投与量	減量なし	25%減量	さらなる減量

・肝機能に応じてラステットの減量をおこなうこと

AST・ALT		T-Bil	投与量
60～180	または	1．5～3．0	50%減量
180を超える	または	3．0を超える	中止

・腎機能に応じて、ブレオの減量をおこなうこと

Ccr（mL/min）	50以上	40～50	30～40	20～30	10～20	5～10
投与量	減量なし	30%減量	40%減量	45%減量	55%減量	60%減量

初版　　2020．6．15　作成